

## 夜不成寐（夜半惊醒）

作者：佚名

译者：尹蕾

本书为日本平安后期物语中的代表作之一，作者未详，一般认为是菅原孝标女（《更级日记》作者）所作，作品主题是错综复杂的人际关系以及主人公苦恼的心理纠葛，目前国内尚无中译本出版。

## 第一卷 不合时宜的一夜情

## 梗概

当时，有名为源氏太政大臣之人，身为朱雀院的兄弟，在世闻名望颇深。两位夫人先后早逝，只留下帅宫之女所生大小姐和二小姐，以及按察使大纳言之女所生左卫门督和宰相中将，这两男两女。太政大臣一手将几个孩子抚养长大，其中对聪明可爱的二小姐最为宠爱。二小姐十三岁那年的八月十五夜，梦见天上下凡，教授了她琵琶曲的种种后离开，第二年同一个夜晚，天人再次从梦中出现，教授了她剩下的秘曲，说道：“甚为遗憾，如此优秀之人，居然是为情所恼，终生不得安宁之宿命。”为她而叹息，而后消失不见。背负着这样悲剧命运预言的女性——二小姐即本故事的女主人公。

太政大臣很看重关白左大臣的长子权中纳言，令女儿大小姐与之缔结婚约。中纳言眉清目秀，是被众人期待未来大有作为的贵公子。他妹妹身为中宫，且为东宫之母，他的前途不可限量。此乃男主人公。

二小姐十六岁为大厄运年。为避忌讳，她离开了为操持姐姐婚礼而忙碌的父亲宅邸，由表姐陪伴前去表哥僧都位于九条的家中。而在那旁边，恰巧遇到了为探视乳母而来的中纳言。中纳言为琴声所吸引，从围墙缝隙中偷窥二小姐，就如同看到“皎洁的望月之光”一般，瞬间被迷倒，两人有了一夜情。二小姐因此怀孕。中纳言虽然与大小姐结婚，却始终无法忘记九条的女子。他将但马守的三女（二小姐表姐的外甥女）错认为二小姐，化名宫中将，事情变得错综复杂。最终，中纳言得知所寻女子乃自己的妻妹，甚为苦恼。经历了噩梦般的一夜后，二小姐一直卧病在床，得知男方乃是自己姐夫，且自己怀有身孕，感叹自己的身世坎坷，“不留空骸，永别今世”，认为自己只有死路一条。

得知二小姐怀有自己孩子的中纳言，对二小姐的感情越发浓厚。堪称悲剧。男主人公也好，女主人公也好，还有身为姐姐和妻子的大小姐，这种发展都是不幸的。本来，亲人们都是好意。表姐的献身，九条僧都的祈祷，二哥宰相中将的挂念，中宫的同情……可是，这不合时宜的缘分，使得事态变得越发严重起来。

中纳言在卷末，二十岁的正月，晋升为大纳言。

（翻译自小学馆《日本古典文学全集》19《夜半惊醒》）

## 一、寢覚めの恋

人の世のさまなるを見聞つもるに、なを寢覚の御仲らひばかり、あさからね契ながら、世に心づくしなるためしは、ありがたくも有けるかな。

そのもとの根ざしをたづぬれば、そのころ太政大臣ときこゆるは、朱雀院の御はらからの、源氏に成給へりしになむありける。琴笛の道にも、文のかたにも、すぐれていとかしこくものし給ひけれど、女御腹にて、はかばかしき御後見もなかりければ、「なかなかただ人にて公の御後見」とおぼしをきてけるなるべし、その本意ありて、いとやむごとなき覺えにものし給ふ。北の方、ひとところは按察の大納言のむすめ、そこに男二人ものし給ふ。帥の宮の御女の腹には、女二人おはしけり。形見どもを、うらやみなくとどめをきて、競ひかくれ給ひにしち、世を憂きものに懲りて、いとひろく、おもしろき宮にひとり住みにて、男女君だちをも、みなひとつに迎へよせて、世のつねにおぼしうつろふ御心もたえて、ひとりの御羽のしたに四所をはぐみ奉り給ひつつ、男君には笛をならはし、文ををしへ、姫君のいとすぐれて生ひたち給には、姉君には琵琶、中の君には箏の琴ををしへ奉り給に、をのをの、さとうかしこく弾きすぐれ給ふ。中にも、中の君の、十三ばかりにて、まだいといはけなかるべきほどにて、をしへ奉り給ふにもすぎて、たゞひとわたりに、かぎりなき音をひき給ふ。「この世のみにてし給ふことにはあらざりけり」と、あはれにかなしくおもひきこえ給ふ。

## 二、中の君、夢の中に天人から琵琶を習う

八月十五夜、つねよりもあかしと云中にもくまなきに、内にも御遊あるべかりけれど、朱雀院の帝、御風おこらせ給へりければ、にはかにとゞまりて、いと映なく、ところどころに、ひとへに月を賞で給夜あり。この源氏の大殿にも御簾どもあげわたして、姫君たち端にいで給て、大君は、琵琶を、御かたちはきよらに、いとけだかくて、おほのかなるものの音を、ゆ

## 一、惊醒之恋

男女之间有诸多因缘，至今为止已有不少见闻，虽说如此，像这“惊醒”中的两人这般，被深厚的缘分牵绊，却又无比烦恼的例子，仍不多见。

若想对惊醒之恋中的二人身份一探究竟，可知——其时有位太政大臣，乃是先帝朱雀院的兄弟降下臣藉，称为源氏的人物。无论管弦之道还是汉诗文方面，都出类拔萃，十分优秀。可是其母亲只是普通女御，并没有可靠的外戚，父皇认为反而让他作为臣子辅佐朝政，才是为他着想。而他也不负众望，现在成为世间德高望重的人物。太政大臣的夫人，一位是按察使大纳言之女，生了两个男孩。另一位是帅宫<sup>[1]</sup>之女，生了两个女孩。两位夫人生完孩子之后，留下了无限的不舍，相继去世。之后，太政大臣十分悲伤痛苦，对夫妻之缘不抱任何希望，在宽广的府邸里过着鳏夫生活，将男孩女孩都接到身边，毫无续弦的意思，独自一人悉心养育四个孩子。让男孩学习吹笛，教授汉诗文，对十分美丽的女儿，让姐姐学琵琶，妹妹学箏，都弹得非常出色。其中，二女儿虽然年芳十三，应该是充满孩子气的年纪，可是已经能凌驾于父亲的教导之上，只练习了一次就能弹出无法形容的美妙音色。其父太政大臣说：“这恐怕是前世的善报吧。只靠今世的才华，不可能弹出这样的音色。”对二小姐更加发自内心地宠爱。

## 二、二小姐梦中得天人教授琵琶

八月十五的夜晚——所谓中秋的明月，果然月光辉照与往时不同。是夜，月色格外澄明，宫中依例应举办赏月酒宴，因朱雀上皇染风病<sup>[2]</sup>，仓促中止，如同火光消失一般冷清，众府邸内只能各自赏月。这源氏太政大臣的府邸内亦是如此，将御帘皆高高卷起，小姐们来到廊下，大小小姐怀抱琵琶，其姿态优美，

[1] 帅宫：官指天皇之子，帅是太宰帅，太宰府名义上的长官，一般不会去赴任。因此帅宫是皇子任太宰帅的人。

[2] 风病：因感染风毒而患的疾病，类似于今日的感冒发烧一类。

るゝかにおもしろくかきならし、中の君は、幼くちいさき御程に、こよひの月の光にもおとるまじきさまして、箏の琴をひき給ふ。その音いふかぎりなく、そこらの年をへて弾きしみたるよりも、いまめかしく、すみたる音をひきまし給へるに、「めづらかに、ゆゝしうかなし」と見聞き奉らせ給に、夜ふくるまゝに、いといみじくおもしろく、あはれなり。「これをたゞいま、もの思ひしらん人に見せ聞かせばや」と思すほどに、夜いたくふけて、みな御琴にやがて傾きかゝりて御殿籠りいりたるに、小姫君の御夢に、いとめでたくきよらに、髪あげうるはしき、唐繪のさましたる人、琵琶をもて来て、「こよひの御箏の琴の音、雲の上まであはれにひびき聞えつるを、たづねまうできつる也。おのが琵琶の音弾きつたふべき人、天のしたには、君ひとりなむものし給ける。これもさるべき昔の世の契なり。これ弾きとどめ給て、國王までつたへ奉り給ばかり」とて、おしふるを、いとうれしと思ひて、あまたの手を、かたときのまに弾きとりつ。「こののこりの手の、この世に傳はらぬ、いま五あるは、來年のこよひくだり来ておしへ奉らん」とて、うせぬと見給ひて、おどろき給へれば、あかつきがたになりにけり。琵琶は、殿もならはし給はぬものなれば、わざと弾かんとおもはぬに、ならふとみつる手どものいとよく覺ゆるをあやしさに、琵琶を取よせてひき給ふに、大臣聞き給ひて、「こはいかにかく弾きすぐれ給しぞ。めづらかなるわざかな」と、あさみ驚き給つれど、夢をば、はづかしうて、なかなか語りつづけず。つねにならひし箏の琴よりも、夢にならひし琵琶は、いささかとどこほらず、たどらるべき調なくおもひつゞけらる。

### 三、翌年、再び天下人が下り、宿世を予言する

人のきくには、かきも鳴らさず、人しれずをしへし月日をかぞへて待つに、またの年の八月十五夜に成ぬ。そのとし、この君は十四に成給ふ。つとめてより雨ふりくらせば、月もあるまじきなめりと、口惜しうながめくらすに、ゆふさりつかた風うち吹て、月、ありしよりも空すみて、あかくなりぬ。殿は、こよひ内

气度非凡，与琵琶相宜得章，缓缓拨弹着深幽的音色，奏出妙趣横生的曲调。二小姐虽然尚年幼，也是一副毫不逊色于今夜月光的照人样子，弹着古筝。那音色之妙，难以用语言形容。比起长年练习，熟练弹奏的人，更加生动活泼，音色澄净，“这真是无人可比，优美到令人怜爱。”其父亲大人也眯着眼睛，侧耳倾听。夜色愈浓，兴致反而愈高，乐声沁人心扉。“二小姐的身姿和美妙的音色，此时此刻真想让有风雅之心的人都看一看，听一听啊。”如此感慨之际，夜已深，众人都沉浸在琴音之中，沉沉睡去。在二小姐的梦中，出现了一位美若天仙，呈束发<sup>[1]</sup>姿态，犹如从唐绘中走出来的女子，她手持琵琶，说道：“因今夜御古筝之琴音，上达天际，故来此拜访。能传承吾之琵琶的，世间仅君一人，此乃宿世之因缘。来吧，请将吾教与你的乐曲，奏给国王听。”说着，便教授乐曲，二小姐心中雀跃，众多乐曲霎时间便学会弹奏。“乐曲中尚未传授的仅剩五首，明年今日吾将再从天而降，传授与你。”说完，女子便消失了，二小姐从梦中惊醒，发现已近天明。琵琶本是父亲未曾教授过的，平日也不曾弹奏，可梦中天人所教曲目却都清晰记得，深感不可思议，顺手取琵琶随意拨弹，父亲大臣听了，不由得从心底震惊：“到底为何会弹得如此美妙？真乃世间罕见。”而二小姐耻于将梦中之事告知。平日时时练习的古筝，反而不如梦中习得的琵琶，虽然从未动手弹过，却毫不犹豫地随手即弹，乐曲自然而然能回想起来。

### 三、翌年天人再来预言宿命

二小姐在有人听时，从来不弹琵琶，只是在心中默默数着日期，等候天人约定之日来临——很快，又到了中秋。这一年，二小姐芳龄十四。这一天，从清晨便阴雨连绵，“恐怕今夜不会出月亮了”，二小姐心中遗憾，眺望天空陷入沉思，不觉到了日暮，却起了风，天

[1] 束发：头发扎起来盘在头顶，用钗子固定。当时的日本贵族女子主要为垂发，束发是唐式发型。因此后文中说如同在唐绘中走出来一样。

に文つくり御遊あるに参り給ぬれば、いとしづかなるに、端ちかく御簾まきあげて、よひには、例の箏の琴をひき給て、人しづまり夜ふけぬるにぞ、琵琶を、をしへのまゝに、音のあるかぎりいだしてひき給れば、姫君「つねにひき給ふ箏の琴よりも、是こそすぐれて聞ゆれ。むかしより、とりわき殿のをしへたまへど、つねにたどたどしくてえ弾きとどめぬものを、あさましき君の御さまかな」と、聞きおどろき、うらやみ給ふ。例の御殿簾りたるに、ありしおなじ人を、「をしへ奉りしにもすぎて、あはれなりつる御琴の音かな。この手どもを聞きし人は、えしもやなからん」とて、このりの手いま五ををしへて、「あはれ、あたらしい、いたくものを思ひ、心をみだし給べき宿世のおはするかな」とて、かへりぬと見給ふに、この手どもを、覚えて、さらにとどこほらず弾かる。あさましう思あまりて、姉君に、「夢に琵琶ををしふる人こそあれ」とばかりきこえ給へど、なかなか語りつづけ給はず。

#### 四、三年目の十五夜、天人はついに現れず

又かへる年の十五夜に、月ながめて、こと・琵琶弾きつつ、格子もあげながら寝いり給へど、夢にも見えず。打をどろき給へれば、月も明がたに成にけり。あはれに口惜しうおぼえ、琵琶を引よせて、

天の原雲のかよひ路とちてけり月の都のひとと  
ひこず

あかつきの風にあはせて弾き給へる音の、いふかぎりなくおもしろきを、大臣もおどろかされて、「めづらかに、ゆゑしくかなし」と聞き給ふ。

#### 五、姫君の婚約

この君に、姫君はいま五ばかりが年上にもものし給へば、ことごとおとなび給ひにたるを、「いかにもてなしきこえん」と、おぼしみだるる事かぎりなし。「この比内には、關白し給ふ左大臣の御女、春宮の御母にて後に居給へる、御おぼえのいかめしさに、御はらからの式部卿宮の御女、承香殿女御ときこえて、わたくし物に心ぐるしう思しとどめられたる、すゑすゑにて、なにばかりのことあるべきにあらず。春宮はまだ稚兒にておはします。いかがはすべき」と思すに、左大臣

空比去年更加澄净，月色耀眼。父亲大臣今夜要去宫中参加管弦诗文宴会，已然出门，府邸内一片寂静，二小姐来到走廊边，将御帘卷起，夜晚像往常一般弹奏古筝，待夜深人静后，将去年天人所教授的琵琶尽情弹奏。大小姐听了说，惊讶地想，“比起平日常弹的古筝，这琵琶的音色更胜一筹。琵琶是以前父亲亲自教授于我的，我虽经常练习却仍不能熟练弹奏，而她居然弹得那么好！”不由得羡慕二小姐。与之前一样，二小姐休息时，天人又出现在她面前，“你弹奏的琵琶音色，比吾教授的还要美妙。无人可领略此曲的妙处。”说完，将其余五首曲子教给她，“啊，真是可惜。如此这般的妙人，却有被情所恼，心烦意乱的宿命。”然后，便自行离去。梦中如此，而所教授乐曲，即使醒来也能清晰记得，流利弹奏。二小姐自己也觉得不可思议，忍不住对姐姐说：“在梦中有人教授我琵琶。”也只说了这么一句，其他的不再透露。

#### 四、第三年中秋夜天人未出现

又一年的中秋之夜，二小姐依旧眺望圆月，边弹古筝和琵琶，边等着天人，格子窗打开着便进入梦乡，但天人终究没有在梦中出现。突然醒来时，警觉天已大亮，满月只剩残影。二小姐内心悲伤遗憾，取过琵琶，

天原云路闭，月都人不来。

合着拂晓的微风弹奏出的琵琶之音，无以言表的雅致，父亲大臣闻乐醒来，侧耳倾听，心想“实在罕见，动听令人害怕。”

#### 五、大小姐的婚约

大小姐比二小姐年长五岁，各方面已是成人，“如何才能为她找个得意郎君”，父亲太政大臣为此伤透脑筋。“即使想令她入宫，可如今宫中已有关白左大臣的女儿身居后位，还是东宫之母，深受陛下宠爱。此外，还有自己兄长式部卿亲王之女，人称承香殿女御，这位也是圣恩正盛。要给这些显赫一时的人忝陪末座，大小姐想必很难幸福。那么若送入东宫处又如何呢？可东宫尚且年幼，如何是好呢？”

の御太郎、かたち心ばへ、すべて身のさい、この世には餘るまですぐれてかぎりなく、世のひかりと、おほやけ・わたくし思ひあがめられ給ふ人有。年もまだ廿にたらぬ程にて、權中納言にて中將かけ給へる、ものし給。關白のかなし子、後の御兄、春宮の御をち、いまも行末もたのもしげに、めでたきに、心ばへなどの、さる我まゝなる世とても、おごり、人を輕むる心なく、いとありがたくもておさめたるを、「御門の御母・後にゐざらむ女は、この人のたぐいにてあらんこそ、めでたからめ」とおぼしめて、殿に御氣色たまはらせ給に、「などてかは。皇女たちよりほかは、この人こそやんごとなかるべきよすがなれ。うしろやすく、めやすかるべき御なか」と、うけひき給てければ、御心ざしはこよなくたちまさりたれど、かぎりあれば、まづ大姫君の御事を、八月一日と取りて、いそぎ給ふ。

于是想来想去，突然想到，左大臣的长子容貌、气质自不必说，学问及各种才艺也是出类拔萃，被称为“世间之光”，公私两方面都受人尊崇。且年纪尚不足二十，已经身居权中纳言兼中將之高位，可谓年轻有为。他是关白最宠爱的儿子，还是当今皇后之兄，东宫之舅父，现在已是人上人，将来更是前途无量。更为可贵的是，他气度不凡，明明在朝廷中执牛耳，却没有一丝一毫的骄纵傲慢之心，为人沉稳，太政大臣考虑到，“若是当不了天皇之母或者皇后，能当上此人的妻子，也可称得上女子之幸吧。”于是咨询关白的意向。“有何不可？除去皇女，太政大臣家的小姐可谓最高贵的配偶。实在是令人放心的般配的良缘。”关白答应了，作为太政大臣来说，虽然对二小姐的关爱格外强烈，但凡事都有先后顺序，首先决定大小姐的婚事。婚礼定在八月一日举行，各种准备工作有条不紊地开始了。

未完待续

原文出自小学馆《日本古典文学全集》19《夜半惊醒》（1974年）

**译者简介：**尹蕾，中南财经政法大学外国语学院。